

被災された方々には
心よりお見舞いを申し上げますとともに、
皆様のご無事と一日も早い復興を
お祈り申し上げます。



宮崎大学 農学部・IPPS-J 会長 鉄村 琢哉

2月末、仁藤国際理事より、「今、NZの地震の報道があります。日本支部とNZ支部とは太いパイプで結ばれています。支部長のお名前でお見舞いのメールを送っていただくなどと言うことは可能でしょうか。」と打診があり、早速、「Dear IPPS members of New Zealand region. We were very saddened to hear about the recent earthquake in Christchurch. On behalf of IPPS Japan region, I hope everyone is safe and sound. I am hoping for the quick recovery of victims. (IPPSニュージーランド支部会員様。

クライストチャーチでの地震のことを聞き、私たちはとても悲しんでいます。IPPS日本支部を代表して、皆様のご無事を望むとともに、被災者の一日も早い復興をお祈り申し上げます。）」と書いて送信するようにお願いしました。まさかその時は、すぐに会員へ向けて同じ文章を書くとは夢にも思いませんでした。

海外の支部会員からIPPS日本支部会員宛の安否を尋ねるメールが届いていますので、以下に紹介させていただきます（一部省略しています）。

Dear Professor Nito, I would like you to know that we are thinking of you and your colleagues at this time of great tragedy in your country. I hope that you and your family are safe and that members of IPPS in the area of Sendai are also safe. I wish there was something we could do to help but we are thinking of you at this time and hope that things will soon improve in the affected area. Peter MacDonald

仁藤教授様。あなたの国で今回起こった大きな悲劇において、我々はあなたやあなたの同僚たちのことを心配しています。あなたやあなたの家族、そして仙台のIPPSメンバーの無事を望んでいます。我々は何かお手伝いしたいのですが、今はあなた方を想い、災害に遭った地域が速やかに復興することを祈っています。

ピーター・マクドナルド
(英国およびアイルランド支部、国際理事)

Giddy Fujimori san, We in Australia are all very aware of the terrible disaster in Japan as it has been headline news here all week. I am pleased that you were not affected but any news of our IPPS friends would be welcome. Perhaps you might publish an article in your next newsletter about the disaster and also present the story in English as well so all IPPS around the world can read it. Michael

こんにちは、藤森さん。オーストラリア人は皆、今週ずっとヘッドラインニュースで放送されている日本の大惨事についてとても気にしています。私はあなたが被害を受けなかったのをうれしく思いますし、IPPSの友人のどんなニュースも歓迎するでしょう。次回のニュースレターはこの災害についての記事が書かれるでしょうし、世界中のIPPSメンバーが英語で読めるようにしていただければと思っています。

マイケル
(2007年宮崎大会に参加したオーストラリア支部会員)

Dear Tadao Fujimori, We want to let you know that we are all watching in horror what is happening in Japan over the last week. We hope that you, your family and staff are all safe. Nico van Rooijen

藤森忠雄様。先週、日本で起こった悲劇を我々全員、見ているということを伝えます。あなたや家族、関係者が無事であることを祈っています。

ニコ・ファン・オーイエン
(オーストラリア支部会員)

Dear Mr Fujimori, We are all shocked and saddened by the earthquake and tsunami in Japan. Please let us know that you, your friends and your family are ok. Leigh Siebler

藤森様。我々は皆、日本で起こった地震と津波に驚き、悲しんでいます。あなたと家族、そして友人の無事をお知らせ下さい。

リー・シーブラー
(オーストラリア支部会員)

被災された皆様におかれましては、一日も早い復旧と日常の生活を取り戻されますよう、心よりお祈り申し上げるとともに、会員の皆様方には、明るい笑顔で再会できることを願い、現在、10月の愛媛大会の準備が大橋実行委員長を中心に進められていることを伝えさせていただきます。

(なお、海外からのメールに対する返答を以下に書きました。機会があれば、どうぞご利用下さい。)

Dear friends of IPPS,

Most members of IPPS Japan region felt the earthquake in varying degrees, and all members are suffered by this disaster. However, we are fine, and are making an effort for a quick recovery. Our thoughts remain with those so badly affected. We hope to meet you with the smile.

Yours sincerely,

Takuya Tetsumura

(IPPSの友達へ。IPPS日本支部会員の多くが地震を多かれ少なかれ感じました。そして全ての会員がこの災害の影響を受けています。しかし、みんな元気で、早急な回復へ向けて努力しています。我々は大きな被害を受けた方々のことを想っています。あなた方と笑顔で会えることを望んでいます。敬具。)

キンカンの開花調節

明治大学 農学部 岩崎 直人



温暖な宮崎の地を離れて明治大学に赴任して、11年が過ぎました。宮崎では行えなかったオウトウの裂果に関する研究を新たに開始した他、ブルーベリー、カキ、ウンシュウミカンやキンカンなどを用いて、地球温暖化の影響を含めた環境との関わりについて研究を行っている。ここでは、宮崎にいた頃から行っているキンカンの開花調節について紹介する。

キンカンは中国南部、台湾、日本で散在的栽培されており、日本では宮崎県や鹿児島県などの南九州で主に栽培されている。四季咲性を有しているため4月から9月までに数回の開花期があるが、果実の生産には6月～7月にかけて開花する夏花が利用されている。夏花は春に萌芽・伸長した新梢の葉腋に着生するが、2週間前後の間隔

で3回～4回開花し、それぞれ1番花～4番花と呼ばれている。新梢の伸長が停止してからおよそ1ヶ月後に各葉腋に花が咲くが、着果しない場合にはその2週間程後に再び花を着生する。果実は1番花に着果した場合に大果で品質優良となるが、概して1番花の数は少なく年による変動も大きいことから、安定した果実生産を行うためには2、3番花が利用される場合も多い。1～3番花に着果した果実の生育は異なってくるので、成熟時期にも1～2ヶ月の差が生じる。したがって、キンカンの収穫は成熟した果実を一つ一つ選別しながら行う必要があるため、手間のかかる作業である。これまでの研究で、新梢の伸長が停止して



キンカンの1番花



キンカンの結実

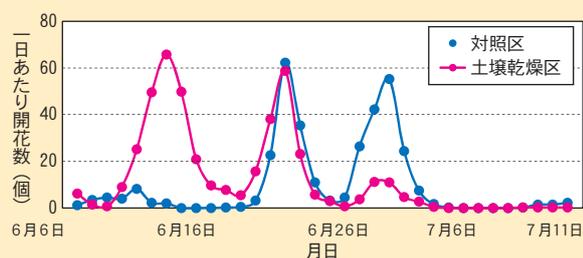
キンカンの開花調節

から10日程後の花芽分化期に土壤乾燥処理を行うと1番花が有意に増加し、1番花のみでも十分な収量が得られることが明らかになった【図1】。ただし、土壤の乾燥による効果が、年によって異なることが問題で、土壤の含水率や処理期間のみで判断することは難しい。土壤の乾燥によって、葉の水ポテンシャルで $-1.5\sim 2.0\text{MPa}$ 程度の水ストレスに樹体を遭遇させると、1番花が有意に増加するようである。土壤の含水率が同程度であっても、樹体の受ける水ストレスは土壤の種類、処理期間中の気温や日照条件などで異なる。ちなみに、土壤乾燥処理と同時に空気を加湿して樹体の水ストレスを緩和すると、土壤乾燥処理の効果が低下することも確認している【表1】。また、土壤乾燥処理時期は通常5月頃になるが、この影響は花芽分化だけでなく、果実の品質にも影響することが明らかになっている。特に、果皮色の赤みが強くなるな

ど、果実肥大促進以外の品質向上を図ることも可能である【表2】。キンカンは、他のカンキツ類とは違って、主に果皮を可食部位としていることから、果皮に多く含まれる色素などの機能性成分を効率良く摂取できる。発ガンを抑制する効果があるとされる β -クリプトキサンチンも、ウンシュウミカンをはじめカンキツ類の果皮には多く含まれているが、もちろんキンカンの果皮にも多く含まれている。土壤乾燥処理から8~9ヶ月も後になる果実の収穫まで、その影響が継続することが不思議であるが、おそらく樹体内の炭水化物代謝が影響されていると思われる。今後はこの機構についても明らかにしたいと考えている。

これは一例ではあるが、人為的な環境調節によって植物が本来備えている機能を誘導し、付加価値の高い果実を生産することが可能である。

【図1】土壤乾燥処理が‘ネイバ’キンカンの開花数に及ぼす影響(1997年)



【表1】土壤乾燥および空気過失処理が‘ネイバ’キンカンの開花数に及ぼす影響(2010年)

	開花数(個)	
	1番花	総開花数
対照区	64.8b	86.8b
土壤乾燥区	148.7a	154.7a
土壤乾燥・空気加湿区	109.3ab	113.6ab

異なるアルファベット間には5%レベルで優位な差がある

【表2】土壤乾燥処理が‘ネイバ’キンカンの果実品質に及ぼす影響(1998年)

	果実重(g)	果皮色			糖度(%)
		L	a	b	
対照区	10.4±0.56	66.0±0.32	17.6±0.80	63.4±0.41	16.6±0.44
土壤乾燥区(中)	15.3±0.57	65.5±0.38	15.1±1.08	61.1±0.45	16.3±0.28
土壤乾燥区(強)	14.1±0.90	64.7±0.66	22.4±0.76	62.6±0.53	16.1±0.55

平均±標準誤差

ツルバギア属の全容と育種の可能性

(株)フラワーオークションジャパン
取締役 経営企画室長

長岡 求



ツルバギア (*Tulbaghia* L.) というと国内では旧種名のフラグランスで知られるシムレリ (*T. simmleri* = *T. fragrans*) とヴィオラセア (*T. violacea*) の2種が普及しています。前者はニンニク臭が弱く、花茎が長く伸びることから切り花に利用が多く、後者は強いニンニク臭がありますが、何よりも常緑性と四季咲き性に優れ、暑さや寒さに強いことから花壇や造園用に利用されます。ですが、それほど普及するものではなく、苗が通販で販売される程度のものでした。

そのようなツルバギアに興味を持ったのは5年ほど前のこと、たくさんの原種と種間交雑種を紹介するホームページを見つけてからです。ツルバギア属は南アフリカを中心に、タンザニアやナミビアに分布するものを含めて22種が見つかっています。その形態や形質は変異の幅が大きいのですが、そのホームページからは種間交雑が自由に行えそうという感触を得ることができました。そして、収集を始めました。

入手方法はネット販売と種子交換を利用し、大半は南アフリカから種子で入手してきました。現在、数種を除いて大半の原種が入手でき、栽培するなかで特性もかなり判明してきました。今回はツルバギア属の多様性を紹介しようと以下にまとめました。

生態および形態

葉はふつう帯状で、冬に葉を枯らす夏生育型と夏に休眠する冬生育型があり、夏生育型の多くは冬の温度を確保すると常緑に育ちます。地中には多肉化した短縮茎を形成する種が多く、*Tulbaghia simmleri* では明らかな鱗茎を形成し、根は多肉化する種が大半です。草丈は10cm内外のものから60cmを越えるものまであります。

花は散形花序につき、ふつう開花時に葉があり、開花期は種類によってまちまちです。*T. simmleri* のように晩秋から春まで咲き続けるもの、*T. violacea* のように春から秋まで次々に咲くもののほか、真冬に開花するもの、春だけ開花するものがあります。

小花は花筒部と花弁状の花冠裂片、副花冠からなります。副花冠はツルバギアを特徴付ける形態です。日本で普及する2種は副花冠があまり目立たず、花筒部や花冠裂片がきれいな桃色などに色づきますが、ツルバギア属においてそれは珍しい姿で、多くは小さな花冠裂片をつけ、花冠裂片と花筒部はふつう同色で帯赤緑色や緑色など地味なものが多く、副花冠がワインレッドや暗赤色、黄色やオレンジなどに色づいて目立ちます。そして副花冠は多少なりとも多肉化します。その他、子房上位で子房は花筒部に隠れ、雄しべは花筒部の内側から生じ、3本ずつが2列に並びます。

花の芳香と茎葉のニンニク臭

花にはふつう芳香があり、*Tulbaghia simmleri* と *T. violacea* の2種は蝶や蜂が花粉を媒介することから日中に強く香りますが、多くは夕方に香りを強くします。また、香りの質も種によって違いがあります。茎葉にはふつうニンニク臭があります。特に *T. violacea* は花の香りを打ち消すほどのニンニク臭を放ち、それを嫌う人も少なくありませんが、*T. acutiloba* などはまったく無臭で、育種によりニンニク臭を持たないものを作出できる可能性も見えます。

生態的分類

①夏生育種および常緑種

- *T. acutiloba* ——中型種。花茎長15~25cm。開花は春から夏にかけて。副花冠が発達し、暗赤色からオレンジ色。半常緑だが、冬越しは乾き気味にしないと枯死することもある。葉にニンニク臭がない。
- *T. alliacea* ——中型種。花茎長15~25cm。花期は春、出葉と同時に開花。副花冠は暗褐色。
- *T. cernua* ——中型種。花冠は緑色で副花冠は黄色。栽培期間が短く詳細は不明。
- *T. cominsii* ——小型種。葉はほぼ糸状。叢生して地下の短縮茎の発達はわずか。花茎長10~20cmほどの小型種。ほぼ四季咲きで常緑。副花冠は小さく、花冠は白色から淡桃色。
- *T. galpinii* ——小型種。花茎長5~15cm。もっとも小型の種類。地中の短縮茎はほとんど発達しない。花付きよく花期も長い花も小さく目立たない。花冠は緑色で副花冠は白色から褐色。こぼれダネでよく茂る。冬には休眠する。
- *T. leucantha* ——大型種。冬には完全に休眠し、乾燥状態で冬越し。地中に多肉化した短縮茎が発達し、叢生する。花茎長30~50cmの大型種。副花冠はワインレッドや暗赤色、ときにオレンジ色。
- *T. ludwigiana* ——大型種。冬には完全に休眠。地中に多肉化した短縮茎が発達する。花茎長40~60cmの大型種。副花冠が多肉化してワインレッドやオレンジ色、ときに黄色に色付く。花きは初夏のみ。
- *T. montana* ——中型種。柔らかく光沢のある緑色の葉が特徴。短縮茎はあまり肥大せず、よく分けつして叢生する。冬には寒さで葉が枯れるので水を切って越冬させる。花茎長20~30cm。花冠は緑色で副花冠は灰色を帯びたオレンジ色。
- *T. natalensis* ——中型種。種小名から判るようにナタール原産。花色などに変異が多い。栽培期間が短く、詳細は不明。



T.acutiloba



T.cominsii



T.galpinii



T.leucantha(orange)



T.ludwigiana

■ *T. simmleri* (*T. fragrans*) ——大型種。明らかな鱗茎を形成し、自然分球も盛ん。温室では常緑だが、戸外では冬に葉が枯れる。晩秋から初夏にかけて多く開花することから、短日植物と推測される。ツルバギアには珍しく花冠と副花冠がほぼ同色に色付き、ばら色、ピンク、白色などの色幅がある。



T. montana

■ *T. violacea* ——大型種。よく分けつして叢生し、地中に多肉化した短縮茎があるが、一つ一つの短縮茎はそれほど大きくなる。ほぼ常緑で四季咲き性が強く、花は副花冠がほとんど発達せず、萼筒部および花被裂片が美しく色づく。花色は桃色に濃淡があり、白色の個体も出現する。



T. simmleri(pink)

■ *T. violacea* var. *maritima* —— *T. violacea* の葉はブルームがあり灰緑色を呈するが、この変種は光沢がある緑色。常緑性が強い。小花梗が短く、ときに複数の小花梗が癒着するなど、基準変種との違いがみられる。



T. violacea

②冬生育種

■ *T. capensis* ——盛夏の2～3ヶ月、葉が枯れて休眠する。花茎長25～35 cm。3～5月に開花。花色は *T. leucantha* に似るが、副花冠に切れ込みが目立つ。バニラの芳香がある。



T. capensis

■ *Tulbaghia* sp. (ex. *Koedoespoort area*) ——学名が明らかでないものが数種入手できるが、その中の1種は冬生育種である。花期は1～3月で、副花冠はチョコレート色。夕方にはバニラの香りが強く漂う。

③未入手のもの

ときどきカタログに載るが、タネを播いても発芽しなかったりして未入手のものとして次の4種がある。*T. coddii*, *T. dregeana*, *T. macrocarpa*, *T. verdooriae*。詳細は不明。その他にも *Tulbaghia* sp. や *Tulbaghia nova* sp. など、不明種として出回るものもある。



Tulbaghia.sp
(Koedoesort)

交配および育種

ほぼ100%結実するものがありますが、多くは受粉をしないと結実しません。いくつかの種は明らかに自家不和合性ですが、多くは自家受粉で結実する自家和合性のものです。詳しく調べたわけではないですが、ふつう雌ずい先熟で、自家和合性でありながら結実しにくいのは雄ずいより雌ずいが長いと推測されます。各々、次のように分けられる。

■ ほぼ100%結実する種 —— *T. cominsii*, *T. galpinii*, *T. violacea*

■ 自家和合性だが、受粉が必要な種 —— *T. acutiloba*, *T. capensis*, *T. leucantha*, *T. ludwigiana*, *T. simmleri*, *T. violacea* var. *maritima*

■ 自家不和合性の種 —— *T. montana*, *Tulbaghia* sp.(ex. *Koedoespoort area*)

特別寄稿 ツルバギア属の全容と育種の可能性

ツルバギアの育種は主にイギリスにおいて進み、私も幾つかの組み合わせで交配し、その幾つかは開花に至り、雑種であることを確認しました。現在、次のような組み合わせの種間交雑種があります。

T. acutiloba × *T. cominsii*, *T. cominsii* × *T. violacea*, *T. coddii* × *T. violacea*, *T. leucantha* × *T. coddii*, *T. natalensis* × *T. cernua*, *T. natalensis* × *T. violacea*, *T. natalensis* × *T. verdoorniae*, *T. violacea* × *T. acutiloba*, *T. violacea* × *T. capensis*, *T. violacea* × *T. cernua*, *T. violacea* × *T. natalensis*, *T. violacea* × *T. verdoorniae*

上記から、ほとんどの組み合わせで種間交雑が可能と推測されますが、不思議にも *T. simmleri* を使った交雑が見えません。花が大きく、桃色の花らしい花を咲かせるのは *T. simmleri* と *T. violacea* の2種で、その2種を中心に品種改良を進めるのが育種の方針です。*T. simmleri* が使われない理由が何なのか、いずれ判明すると思っていますが、他種の花粉を乗せて種子を得ており、未開花ですので断定できませんが、種間交雑が可能だろうと思っています。私の手元には次の組み合わせの子株が生育中です。

T. simmleri × *T. galpinii*, *T. simmleri* × *T. ludwigiana*, *T. simmleri* × *T. violacea*, *Tulbaghia* sp.(Koedoespoort) × *T. simmleri*

育種目標はいくつか考えられます。最終的には次のような特性を基本に、花の大小や花形、花色、株の大小などに幅を持たせるとい方向になるでしょうか。

- 常緑で叢生すること——*T. violacea* など
- 冬も緑色に茂ること—— *T. violacea* var. *maritima* や *Tulbaghia* sp.(Koedoespoort) など
- 四季咲きであること——*T. violacea* など
- 明らかな鱗茎を形成すること——*T. simmleri* の特徴
- 葉にニンニク臭がないこと——*T. acutiloba* の特徴
- 花に芳香があること——*T. simmleri* や *Tulbaghia* sp.(Koedoespoort) など

繁殖方法

Tulbaghia simmleri はよく分球するので植替え時に分けます。叢生種の *T. montana* や *T. violacea* などは株分けが可能で、短縮茎が発達する種ではある期間、乾燥貯蔵もできます。また、大半の種が実生による繁殖が容易です。実生から開花まで、小型種で半年から1年、大型種では3年前後、冬生育種は4～5年を要しています。



Hyb
(*actiloba* × *cominsii*)



Hyb
(*cominsii* × *violacea*)



Hyb
(*cominsii* × *violacea*)
Semi-double



Hyb
(*violacea* × *acutiloba*)

和歌山県でのマカダミア栽培

試験研究機構 神内南方系果樹研究所 沖縄分場 前田 隆昭



このたび、藤森理事より原稿依頼がありましたが、現在の研究所での成果はまだありませんので、和歌山県で取り組んだマカダミア栽培について紹介したいと思います。

①マカダミアの紹介

マカダミアは、ヤマモガシ科マカダミア属に属します。原産地は、オーストラリアのクイーンズランドとニューサウスウェールズ州であることから、別名クイーンズランドナッツの樹とも呼ばれています。日本では常緑小木で、実生だと樹高10mまで成長すると言われています。オーストラリアでは樹高18m、樹冠幅15mの樹もあると言われていますので、常緑高木ではないかと考えられています。



【写真1】和歌山県で栽培しているマカダミア樹

②和歌山県でのマカダミア栽培

【写真1】は和歌山県で栽培しているマカダミア樹で、樹高は5mです。【写真2】【写真3】はマカダミアの花で、花色は白とピンクがあります。白色の品種は‘バーディック’で、ピンク色は‘バーモント’です。【写真4】はマカダミアの着果状況です。【写真5】は蕾と果実の両方がある状況です。和歌山県では、一般に5月に満開になりますが、8月にも開花します。したがって、この写真は5月に開花して果実になっているものと、これから開花しようとする蕾の状態です。



【写真2】マカダミア‘バーディック’の花



【写真3】マカダミア‘バーモント’の花

和歌山県でのマカダミア栽培



【写真4】マカダミアの結実状況



【写真5】蕾と果実の両方がある状態



【写真6】マカダミアの葉の形態
左側：Macadamia integrifolia、右側：Macadamia tetraphylla



【写真7】マカダミア果実
左側：‘バーモント’、中央：‘バーディック’、右側 ‘クーバー’

【写真6】は葉の形態の違いです。左側の3枚の葉が輪生する系統は *Macadamia integrifolia*、4枚の葉が輪生する系統が *Macadamia tetraphylla* といわれています。ただ、この2系統の交雑種も多く、交雑種では同一樹上に3枚葉と4枚葉がみられます。【写真7】は、今回試験した3品種の果実です。【写真8】は果実を割った状況で、白い部分が食用の仁です。

マカダミアを経済栽培していくためには、食用部の仁の脂質割合が重要となります。脂質割合が低いと食味が劣り、経済品種には適さないので、高脂質割合が経済栽培品種として重要な要素となります。優良品種の選抜基準は、脂質含量が60%以上と報告されています。栽培した3品種は、すべて65%以上の脂質含量であり、和歌山県でも栽培が可能ではないかと考えます。また、今回の栽培試験において和歌山県では、5月に開花し、10月には収穫可能となりましたが、翌年の2月まで品質は低下せず落果もしなかつたので、樹上貯蔵が可能なこともわかりました。



【写真8】マカダミア果実
左側：‘バーモント’、中央：‘バーディック’、右側 ‘クーバー’
各々外側から緑色の果皮、こげ茶色の殻皮、白い仁

おかえりなさい田染荘へ

田染荘 荘園の里推進スタッフ 加藤 昌美



はじめに、東日本大震災の被害に遭われた方々に心よりお悔やみ申し上げます。

私は2年前に前職を辞し、現在、大分県豊後高田市で、「田染荘 荘園の里推進スタッフ」として生活しております。

豊後高田市は六郷満山文化（神仏混淆文化）の遺跡が多数存在する国東半島の西側に位置し、深山幽谷なる山間地と周防灘に面した海岸線を持つ、人心穏やかな場所です。また、山からは蕎麦や合鴨、海からはマテ貝やガザミなど、様々な山海の美食に満ち、郷土料理の満漢全席が味わえるといっても過言ではない程、食文化豊かな地域でもあります。

私の職場である田染荘は、海岸線から約12km標高100m程の山間部に位置し、墾田永世私財法の制定（720）とともに、山麓の湧水（神社として今でも信仰の対象になっています）を水源にした大規模な農地整備が始まり、宇佐神宮の根本荘園として発展を遂げました。その後、近代の農地整備事業を免

れ、鎌倉時代以来の古文書や絵図と現地の区画、地名、屋敷などが一致する希少な荘園村落遺構として、また中世の荘園村落の姿を色濃く残す農村景観として、近年その価値が再発見されるに至り、平成22年には「国選定重要文化的景観」の指定も受けています。天を削る奇岩を背景に、春は梅・桃の花に始まり、菜種が黄色の絨毯になり、蛍は銀河となり、稲穂が黄金に輝くその里の姿は、桃源郷を髣髴とさせるものがあります。

ここで収穫された荘園米[®]は、「荘園領主制度」によって、領主様に季節のご挨拶や各種イベントへのご招待などの特典付きで、ご希望月にご希望量をお届けしており、美味至極と好評を頂いております。また、荘園特産のマコモダケは、秋の味覚であることはもとより、極僅かな地域でしか入手できない中華料理の高級食材でもあります。

この自然の中、毎年6月第2日曜日に「御田植祭」、6月の土・日には「ホタルの夕べ」、中秋には「観月祭」、10月第2日曜日に「収



里から奇岩を望む



中世からつづく田園風景

穫祭」、11月には宇佐神宮への「猷穀祭」を開催しており、さらに新しいイベントも続々企画中です。農家民泊もでき、地元住民が案内人として里山散策に同行しています。(要予約。ことのほか好評です。)

交通の便の悪い場所ではありますが、お近くにお越しの際には、ぜひ田染荘へお立ち寄りください。日本人の遺伝子に記憶された懐かしいものを思い出していただけると確信しております。

<豊後高田市観光協会><http://www2.city.bungotakada.oita.jp/kankou/rokugo/ta.html>

IPPS-J 第八期理事・監事・役員・理事代理名簿 (2011.1.1~2012.12.31)

	役職	氏名	担当	会社・所属
1	会長	鉄村 琢哉		宮崎大学 農学部 教授
2	副会長	鈴木 隆博	HP静岡大会	(株)浜松花き 代表取締役
3	副会長	大橋 広明	愛媛大会	愛媛大学農学部 生物資源学科 助教
4	事務・会計理事	南出 幹生		南出(株) 代表取締役
5	編集理事	富田 正徳		(株)アイエイアイ エコファーム部
6	国際理事	仁藤 伸昌	BlackBook	近畿大学 生物理工学部 教授
7	国際理事代理	内田 恵介		グリーンクラフト 代表
8	理事	石井 克明	国際理事会	森林総合研究所 森林バイオ研究センター センター長
9	理事	佐藤 伸吾	IPPS活性化	(株)花街道 代表取締役
10	理事	藤森 忠雄	ニュースレター	(株)赤塚植物園 執行役員常務 兼 社長室 室長
11	理事	水谷 朱美	国際理事会	(株)ベルディ 代表取締役
12	監事	遠藤 弘志		掛斐川工業(株) アグリバイオ部 取締役アグリバイオ部長
13	国際交流推進委員	大森 直樹	IPPS活性化	(株)山陽農園 代表取締役
14	年史編纂委員	柴田 勝		(株)王健 代表取締役
15	理事代理	青山 兼人	国際理事会	兼弥産業(株) 事業本部 取締役部長
16	理事代理	速水 正弘	静岡大会	静岡県立農林大学校
17	理事代理	小池 安比古		

編集後記

2011年3月11日は歴史的な悲慘な日になりました。この日、私は会社から誕生日プレゼントのバラの「寄せ植え」をいただき、嬉しい気分に浸っていました。すると、2時半を過ぎた頃に、少し気分が悪くなり、あたりを見回すと事務所が揺れていました。「地震だ!!」。

テレビをつけると、東北地方で非常に強い地震があったことが伝えられ、画面に表示された震度はなんと7や6強。また、マグニチュード8.8という数字でした。直感的に阪神大震災より更に大きな惨事が推測されました。間もなくして、テレビ画面に映し出された光景は、この世のものとは思えない猛烈な津波が、車や電柱、家屋などを次々になぎ倒し、内陸に凄まじい勢いで進む光景でした。誰もが忘れることの出来ない光景でしょう。

4月に入ったある日、若い人の結婚披露宴へ参加した帰

りに、駅からタクシーに乗りし、帰宅しようとしたところ、こともあろうにそのタクシーが、他の車と正面衝突しました。後部座席にいた私はあちこちに打撲をして、救急車で病院へ…そのまま今日(4/23)に至っています。人生の先輩に教えられた話に、「人生には登り坂、下り坂など色々ある。しかし、真坂という坂もあるので気を付けるべし」。

東日本の大震災は誰一人として想像もできなかった巨大災害となりました。

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、多くの亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

世の中には想定外の外で信じられない事態が起こるもので、どのような際にも、冷静に対応したいものですね。

ニュースレター担当：藤森忠雄

※私の個人的な事情により、43号の発刊が遅れましたことをお詫びいたします。

ニュースレターへの原稿大募集

会員相互の情報交換の場として、このニュースレターをご利用ください。気軽に投稿していただければ幸いです。ご投稿を心からお待ちしております。

手書き文章はもちろん、CD、Eメールでも受け付けます。写真も大歓迎です。原稿内容は1ページあたり1,000字+写真2~3枚。顔写真をお忘れなく。

受付窓口

〒514-2293
三重県津市高野尾町1868-3
(株)赤塚植物園 藤森 宛
TEL 059-230-1234(代)
FAX 059-230-0576
E-mail ffctf@akatsuka.gr.jp